

まな Viva!

「京都丹波 まな Viva!」は、学校と先生を応援する南丹教育局の学びのニュースです。

「なんたん学びモデル推進校」の実践研究

なんたん学びモデル推進校では、学び続ける子どもたちを育むために試行錯誤しながら実践が進められました。多様な価値観と学び方が広がる中で、教育「観」が改めて問われており、教師自身の学びをとめないこと、探究心をもって学び続ける姿勢が大切です。2月14日に行われた推進校連携会議及び実践交流会では、園内・校内研究を推進するための組織的な取組や授業改善の工夫などについて、各推進校から実践報告がありました。その実践研究から、管内の各園・校で大切にしたいポイントをまとめましたので紹介します。

- <1年次> 亀岡市立大井小学校 南丹市立園部小学校 南丹市立美山中学校
京丹波町立瑞穂中学校
- <2年次> 亀岡市立亀岡川東学園 南丹市立園部幼稚園 南丹市立八木東小学校
京丹波町立下山小学校 京丹波町立瑞穂小学校

学びの主体者は子ども

どのように授業を改善すればよいのか?

- 既習の知識は何か? ・子どもの様子は? ・単元のゴールの姿は? ・身に付けさせたい力は?
- 学びの本質を捉える
- 心か動く
- 児童生徒が主体的に学習に臨む
- 「教える」
- 「自ら学びとる」へ
- 活用する場面の設定
- 学んだことが生かされている
- 学んだ姿が実感できる
- 達成感がある

質の高い授業づくり～5つの提言～

研究推進を組織で取り組む「みんなが自分事」

1年次推進校の研究紹介

亀岡市立大井小学校

【研究主題】
生き生きと表現し、主体的に学習する子どもの育成

- ふらっと参観(全学級公開)
 - ・互いに授業を見合い、教師の学び合いの機会にする。
- 年度当初に全教職員に向けて研究の概要研修の実施
- 大切にしたいことや全体で確認、共有したいことを紙面で配布 など
- 1か月に1回程度研究推進部会を開催し各学年の取組などの共有

【成果・変容】

- ・見通しをもって計画を立てながら児童自らが学習に取り組めるようになった。
- ・伝え合う授業を大切にすることで心理的安全性が高まった。
- ・1.5往復のやり取りを意識させ、共通点や相違点を考えながら聞くことを大切に指導。
- ・教え合ったり説明をし合ったりすることで、答えまでのプロセスの重要性に気付いた。



南丹市立園部小学校

【研究主題】
子どもが楽しい!教師も楽しい!算数科
～学習意欲を高める授業づくりから確かな学力の定着を目指して～

- 一人1回以上の授業公開
 - ・事後研究会では児童の姿を通して授業を振り返る。
 - 基礎学力向上の取組
 - ・語彙力や「ことばの力」育成のために、読書タイムを設定。
 - ・自ら取り組む家庭学習の充実のため、週末の自主学習を実施。
 - 教員の学ぶ機会の確保
 - ・研修会への積極的な参加と授業参観や授業づくりへのアドバイス。
- 【成果・変容】
- ・授業研究会の活性化により、授業力の向上へ。
 - ・「頑張ったらできる」という児童の学習に対する意欲の向上。

ふり返りの ヒント
ヒントを兼ねながら ふり返りを 書いてみよう!

内容	例えば・・・
①「初めて」について	・OOが分かりました。(理由を書きましょう) ・OOまでは分かったけれど、△△が分かりませんでした。 ・OOが難しくなりました。 ・OOが楽しかったです。
②学習を通して	・OOということに気づきました。 ・OOのやり方が分かりやすくなりました。 ・目標の達成にOOが役に立ちました。 ・これまではOOだけだったけれど、今日の学習で△△にできるようになりました。 ・OOの△△という言葉を覚えました。 ・OOが分かりました。 ・OOが楽しかったです。
③今までの学習の振り返り	・前の学習の振り返り ・前の学習の振り返り ・振り返り ・振り返り
④やってみたいこと	・新しいこと ・新しいこと



南丹市立美山中学校

【研究主題】
自ら学ぶ姿勢を引き出す指導とその効果

- 公開授業週間・学力向上につながる校内研修の実施
 - 各教科からの宿題の工夫・家庭学習の充実
 - ・宿題の状況など「見える化」し、教員の共通した声かけや生徒の意欲向上を促す。
 - OMMT(美山中学校統一テスト)
 - 全校で学ぶ意欲を高められるよう学習に関わる集会 など
- 【成果・変容】
- ・家庭学習の実施日数が増えた。学習プリントを活用する姿が見られるようになった。
 - ・授業内容とリンクした家庭学習の提示が増えた。
 - ・生徒の頑張りを広げることで前向きに取り組む生徒が増えた。



京丹波町立瑞穂中学校

【研究主題】
「単元構成」を軸にした授業改善による学力向上

- 単元構想を軸にメリハリのある授業づくり
 - 課題解決型学習、新聞の活用(年間を通じて行った取組)
 - 教科学習と総合的な学習の学びの往還
 - ・課題解決型学習と教科学習のつながりを意識した授業の実践。
- 【成果・変容】
- ・単元を見直すことで、付けるべき力が教師の中で明確になった。
 - ・統計学コンクールや明日へのチャレンジコンテスト、京都新聞社「窓 読者の声」などへの参加を通して、表現力の向上につながった。
 - ・学びをつなげていく意識が芽生えた。



2年次推進校の研究紹介

亀岡市立亀岡川東学園

【研究主題】
自分ごととして学ぶ子ども
～様々な課題を、思考を働かせて工夫しながら解決したり、
よりよい方法を見つけたりできる児童生徒の育成～

- ユニット(小グループ)で協働して研究を進める。
 - ・教師と児童生徒が共に意識するキーワード「自分事」
 - ・前期、後期の教員が共にユニット内で学び合う。
- 全体研修、ユニット研修での学びや個人レポートについてなど、学びを整理し共有。
- 自主勉強カードにその日の振り返りを書き、それを基に自主勉強に取り組む。

【成果・変容】

- ・学びを自分事として取り組める姿が増えた。
- ・6年生の自己調整に関する肯定的回答が上がった。
- ・授業改善につながったり、気軽に教科指導の相談をしたり、
子どもの変容について話す機会が増えたりした。



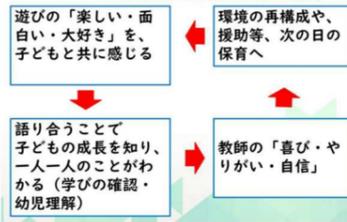
南丹市立園部幼稚園

【研究主題】
とことん遊んで見つけよう。楽しい!面白い!大好き!
～読み取り、語り、つなぐ保育について共に考えよう～

- 公開保育
- 少人数グループで「和(Wa)になって語ろう会」の開催
 - ・保育を語り、事例をもとに意見を交流する。
 - ・様々な視点や捉え方で保育や子どもを見取っていく。
- 日常的に保育の振り返りをを行い、指導力の向上を図る。

【成果・変容】

- ・クラスの先生の思いが分かり、子どもを様々な角度から見る事ができた。
- ・教師間の子どもに関する共通言語や内面理解の視点が増えた。
- ・担任と同じ意識で子どもに声掛けができるようになり、同僚性が上がった。



南丹市立八木東小学校

【研究主題】
主体的に学び、つながり合い、自ら動き出す児童の育成
～言語活動の充実を通して～

- 目指す子どもの姿を全体で協議共有
- 研究体制「国語」「特活」「道徳」の3本柱
 - ・国語:話し方、聞き方の提示
 - ・道徳:道徳だより、PTA 親子道徳
 - ・特活:活発な縦割り班活動、委員会活動

【成果・変容】

- ・短時間で頻度の高い教職員のミニ研修を行い、振り返りの書き方、道徳の重点項目、家庭啓発、特活の取り組み方を確認することで、同じゴールを目指して指導、取組を進める意識が高まった。
- ・児童アンケートで「想いや考えを伝えている」「話し合いによる新しい気付き」「めあてをもつ」等において肯定的意見が増えた。



京丹波町立下山小学校

【研究主題】
互いを認め、自ら考え行動しようとする児童の育成
～ゴールを共有し、コーディネートする～

- 研究協議で重点的に取り組んでいくことを確認
 - ・児童が主体的に学べる環境や授業スタイル、児童の実態に応じた単元構想など前年度確認したことに加え、相手意識をもった話し方、聞き方をすることを新たに加えた。
- 事後研で確認したことを職員室に掲示
- ミニ研修会の実施
- 教師の得意を生かした校内研

【成果・変容】

- ・児童同士で問題を解決しようとする姿がたくさん見られるようになってきた。
- ・児童が「自分たちで(ルールなどを)変えられる」という思いを持てるようになってきた。
- ・アンケート調査から「自分にはよいところがある」の項目が上昇。



京丹波町立瑞穂小学校

【研究主題】
児童も教師も探究する姿を目指して～子どもが創る学校～
小学校におけるチーム担任制を通して、互いに学び合い、
高め合う校内組織体制の確立

- チーム担任制の導入
- ユニット研究
 - ・子どもが主体的になるストーリーのある授業づくりを目指す。
 - ・8ユニット(1ユニットにつき3~4人)
 - ・指導課題と児童課題を共有し、授業からのアプローチ方法を検討。

【成果・変容】

- ・質問紙調査を行った結果、多くの項目で肯定的な回答が増加し、
少しずつではあるが児童の自己肯定感が高まってきている。
- ・養護教諭や栄養教諭も含め、教職員が一体となって取り組めた。
- ・思いを伝え合ったり心を動かしたりするような経験が子どもの姿を変容させる。



◆推進校連携会議及び実践交流会から◆

幼児期から大切にしていきたい。自己肯定感を高める取組が進んでいる。

学校全体で研究に組織で取り組むには、思いを伝えあう場を設定することが一番の近道。

学校で話す力・聞く力に視点が当たっていることが分かった。



- ◆どの学校も子どもの実態(付けたい力)をもとに研究を進めた。
- ◆年度中に成果の検証を行い、子ども達の力につながっていることが分かった。
- ◆多くの授業研を通して学び合ったり、ミニ研修をしたりして、教員のベクトルを合わせ取り組んでいった。

ポイント

